中学３年　国語科　教材別テスト⑫　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学３年　国語　／　「わたしを束ねないで」（新川和江）・光村図書『国語３』

【このテストの使い方】

この詩は**著作権が存続している現代詩**のため、問題用紙にも解答にも**本文は一行も載せていません**。必ず**教科書『国語３』の「わたしを束ねないで」のページを開いたまま**解答します。本文は「第一連」「第五連」のように**連の番号**で示しているので、どの連の話をしているのかを確かめながら読み進めてください。書き抜き問題はありません。**詩のしくみ（くり返し・連の対応・イメージの広がり）と主題**をつかむことがねらいです。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝20点
	二	語句の知識（対義語・類義語・慣用句・四字熟語・語彙）	２点×７＝14点
	三	表現技法とその効果（反復・呼びかけ・倒置・体言止め・列挙・比喩）	16点
思考・判断・表現 50点	四	「わたしを束ねないで」の読解	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　題名と各連の冒頭が「わたしを～ないで」という**否定の呼びかけ**でそろい、それが**くり返される**構成に気づけるか。

②　各連が〈**枠にはめようとする行為をこばむ前半**〉と〈**本来のわたしを示す後半**〉の**二部構造**で対応していることを説明できるか。

③　こばむ側のイメージ（まとめられ、留め置かれ、注がれ、名づけられ、区切られるもの）と、〈わたし〉のイメージ（広がり、動き、流れるもの）を**対照**としてとらえられるか。

④　「娘」「妻」「母」のような**既成の役割・肩書き**に閉じこめられずに生きたいという**主題**を、自分の言葉で書けるか。

⑤　**口語自由詩**としての行分け・空白・くり返しが、どのように思いを強めているかを**効果**として説明できるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	たば（ねる）	⑪	稲穂
②	ひょうほん	⑫	枠
③	こんちゅう	⑬	願う
④	かたがき	⑭	求める
⑤	こうそく	⑮	名札
⑥	きせい	⑯	区画
⑦	かいほう	⑰	広がる
⑧	つむ（ぐ）	⑱	呼びかける
⑨	す（んだ）	⑲	倒置
⑩	うった（える）	⑳	反復

小計　20点

【注意したい字】

①「束ねる」は「たばねる」。「そくねる」は誤り。②「標本」の「標」は**きへん**。「漂」（さんずい）と混同しないこと。④「肩書き」は「けんがき」ではなく**かたがき**。⑤「拘束」の「拘」は**てへん**。「構」「購」との書き分けに注意。⑥「既成」は**できあがっている**意。「既製（品）」との使い分けも確認。⑦「解放」は**ときはなつ**意で、「開放（開けはなつ）」とは別。⑧「紡ぐ」は**いとへん**。⑪「稲穂」の「穂」は**のぎへん**。⑫「枠」は**きへん**。右側は「卒」ではなく「**夲**」で、全体で八画。⑯「区画」を「区劃」「区郭」と書かないこと。⑲「倒置」の「倒」は**にんべん**。①⑧⑨⑩⑬⑭⑰⑱は**送りがなまで**必要。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**抽象**	具体 ⇔ 抽象。具体＝形や実例をもってはっきりしていること、抽象＝個々の事がらから共通する性質を取り出して考えること。「抽象」の「抽」は**てへん**。
(2)	**イ**	「拘束」＝行動の自由をうばってしばること。ほぼ同義の「束縛」が正答。ウ「放任」は反対の意味。
(3)	**ア**	「型にはまる」＝決まりきったやり方のとおりで、新しさや個性がない。この詩のテーマそのものにつながる言い方。
(4)	**イ**	「レッテルを貼る」＝人や物を一方的に決めつけて評価する。ほめる意味では使わず、ふつう**よくない決めつけ**に用いる。
(5)	**様（多種多様）**	「多種多様」＝種類も性質もさまざまであること。「多種多種」「多種多量」は誤り。
(6)	**イ**	「十人十色」＝好みや考えは人それぞれ。似た意味の四字熟語に「各人各様」がある。
(7)	**ウ**	「画一的」＝どれも同じようにそろえて、個々のちがいを認めない。「画」を「絵」の意味でとらえる誤りが多い。

小計　14点

三　表現技法とその効果　（16点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 4 点	**（例）同じ訴えが重なって耳に残り、話し手の思いの強さが読む人に伝わる効果。（34字）**	技法は**反復**。「**くり返されることで印象に残る／耳に残る**」（２点）＋「**思いの強さ・切実さが伝わる／気持ちが高まる**」（２点）の二点で採点。 「くり返している」と事実をなぞっただけのものは０点（**効果**を書くこと）。25〜40字から外れたら－１点。
(2) 3 点	**イ**	「〜ないで」は**否定の命令（禁止）の形**で、目の前の相手（二人称）に向けられる。そのため、落ち着いた説明ではなく**直接うったえる切実な調子**が生まれる。
(3) 3 点	**（例）先に述べた動きが強く印象に残り、余韻のある言い方になる。（28字）**	技法は**倒置**。「**前に出た部分（動き）が強調される**」（２点）＋「**印象・余韻が残る**」（１点）。「語順が入れかわっている」だけは０点。20〜30字から外れたら－１点。
(4) 2 点	**（例）言い切らずに余韻を残し、情景を読む人に想像させる。（25字）**	技法は**体言止め**。「**余韻・印象づけ**」または「**読み手に想像させる**」のどちらかが書けていれば２点、どちらもなければ０点。20〜30字から外れたら－１点。
(5) 2 点	**（例）いろいろなものが次々と並び、にぎやかな広がりが伝わる。（27字）**	技法は**列挙**。「**いくつも重なって広がる感じ／数の多さ・豊かさ**」が書けていれば２点。「読みやすくなる」は０点。20〜30字から外れたら－１点。
(6) 2 点	**イ**	①は「〜のように」を使う**直喩**、②は使わない**隠喩**。隠喩はたとえの印がないため、二つのものが一つに重なって見え、**印象が強くなる**。なお「夜の町が息をしている」のように人でないものを人のようにえがくのは**擬人法**で、直喩・隠喩と並ぶ比喩表現の一つ。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点（20＋14＋16）

【効果を書くときの型】

技法の効果を問われたら、「**〜が強調され（印象づけられ）、〜が伝わる（感じられる）。**」の型でまとめると得点しやすい。**技法名を書いただけ・言いかえただけでは０点**になる。とくに「反復」は〈くり返す→印象に残る→思いが高まる〉、「倒置」は〈語順を変える→前に出た語が目立つ〉、「体言止め」は〈言い切らない→余韻〉、「列挙」は〈並べる→広がり・豊かさ〉と、**原因と結果をつないで**書くこと。

四　「わたしを束ねないで」の読解　（50点）

番号	解答	解説・採点のポイント
(1) 3 点	**エ**	話し言葉に近い**口語**で書かれ、音数や行数の決まりがない**自由詩**。「口語自由詩」。
(2) 4 点	**イ**	題名と各連の初めが同じ形でそろう**反復**の構成。くり返すたびに**こばむ対象だけが入れかわり**、五つの連が**一つの願いの言いかえ**として結びついていく。ア「関係がない」は誤り。ウ「形がくずれる」、エ「とまどい」も本文と合わない。
(3) 4 点	**イ**	各連は〈**前半＝枠にはめようとする行為をこばむ**〉＋〈**後半＝本来のわたしのありようを示す**〉の**二部構造**で、五連すべてが同じ形に対応している。この型をつかめると、(5)(7)(10)もまとめて解ける。
(4) 3 点	**イ**	「〜ないで（ください）」と呼びかけられている相手は、「**わたし**」**をできあいの役割や枠に当てはめようとする周囲の人々・世の中**。特定の一人ではなく、そうした見方そのものに向けられている。
(5) 5 点	**（例）見渡すかぎりに広がり、たえず動き続ける、大きく自由なもの。（29字）**	「**広がり・大きさ・果てしなさ**」（２点）＋「**動き続ける・流れる・とどまらない**」（２点）＋「**自由である**」（１点）で採点。 「りっぱなもの」「美しいもの」など、広がり・動きに触れないものは１点まで。「**〜もの。**」**の形**で結んでいないものは－１点。 25〜40字から外れたら－１点。
(6) 4 点	**イ**	「娘」「妻」「母」は、いずれも**他者との関係によって与えられる役割名**。その名で用意された立場にとどめ置かれることは、**一人の人間としての広がりを奪われること**を意味する。ア「家族をわずらわしく思う」は言いすぎで誤り。
(7) 5 点	**（例）だれかに区切られて終わるものではなく、どこまでも続き広がっていくものととらえているから。（44字）**	「**他人に区切られ、完結させられるものではない**」（２点）＋「**終わりなく続き、広がっていく**」（２点）＋「**自分の生き方そのものとして**」（１点）で採点。 「川のようだから」とたとえを言いかえただけのものは１点。「**〜ととらえているから。**」**の形**で結んでいないものは－１点。30〜45字から外れたら－１点。
(8) 4	**ア**	題名の「束ねる」は、花を束ねるような実際の動作ではなく、**一人一人の個性を区別せず、ひとまとまりにして扱う**ことのたと

点		え。この詩が「束ねられること」をこばむ理由がここにある。ア＝文字どおりの意味、ウ・エは詩と無関係。

四　「わたしを束ねないで」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(9) 3 点	**イ**	行分けと空白（一字空け）は、**読む速さ・息づかいを変える**はたらきをもつ。空白のところで自然に間ができ、**読み手がそこで立ち止まって思いを広げる**。ア「読み方に関係しない」、ウ「定型のリズム」（自由詩なので定型ではない）は誤り。
(10) 5 点	**（例）既成の役割や名前に閉じこめられず、自由に広がって生きたいという願い。（34字）**	「**既成の役割・肩書き・名前に閉じこめられない**」（３点）＋「**自由に広がって生きたい**」（２点）で採点。 「自由がほしい」だけは２点。「女性はつらい」など作品外の主張にずれたものは０点。25〜40字から外れたら－１点。
(11) 4 点	**（例）各連のはじめの呼びかけを、連を追ってしだいに強く読む。訴えが重なって高まっていくことを声で表せるから。（51字）**	【採点ルーブリック】 **４点**…具体的な工夫（例：呼びかけの行を強く読む／空白で間をとる／後半のイメージはゆったり広げて読む）と、その**理由**が詩の構成・効果（反復・二部構造・広がり）に結びついている。 **２点**…工夫は書けているが、理由が「気持ちがこもるから」など一般的な説明にとどまる。 **１点**…「大きな声で読む」など、この詩でなくても言える内容のみ。 **０点**…工夫も理由も書かれていない。 40〜60字から外れたら－１点。

四　「わたしを束ねないで」の読解　（つづき）

番号	解答	解説・採点のポイント
(12) 6 点	**（例）わたしは、学級で「おとなしい子」と決めつけられるのがいやだ。本当は言いたいことがたくさんある。この詩の「わたし」も、与えられた名前に収まることを拒んでいる。(78字)**	【採点ルーブリック】 **６点（満点の条件）**…①自分が束ねられたくないと感じる**場面**が**一つ具体的に**書かれている／②その場面で**何を決めつけられているか**が示されている／③この詩の「わたし」の思い（**既成の枠に収まることをこばむ**）と**重ねて**述べられている。 **４点**…①②は書けているが、③の詩との結びつけが弱い（「この詩と同じだ」だけなど）。 **２点**…場面だけ、または詩の説明だけ。 **０点**…無解答、または設問と関係のない内容。 60〜80字から外れたら－１点。言葉づかいの乱れ・誤字は内容点から減じない。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. この詩は**五つの連が同じ型でくり返される**。連ごとにばらばらの話をしているのではなく、**同じ願いを五通りに言いかえている**。
2. 各連は〈**前半＝こばむ**〉＋〈**後半＝本来のわたし**〉の**二部構造**。この対応をおさえると、どの連の問いも同じ考え方で解ける。
3. こばむ側のイメージは、まとめられ・留められ・注がれ・名づけられ・区切られるという**すべて「小さく閉じて固定する」方向**でそろっている。
4. 〈わたし〉の側のイメージは、**広がり・動き・流れ**でそろう。前半と後半は必ず**対照**になっていると考えて読む。
5. 「わたしを〜ないで」は**否定の命令（禁止）＋二人称への呼びかけ**。この形が、説明ではない**切実な訴え**を生む。ここを「作者がなげいている」と読むと主題がずれる。
6. 第四連の「娘」「妻」「母」は**家族への不満ではなく、役割名に閉じこめられることへの拒否**。読みちがえが最も多い連。
7. 題名の「束ねる」は、**個性を区別せずひとまとまりに扱う**という比喩的な意味。実際の動作と取りちがえない。

8. 記述は、**詩のたとえをそのまま言いかえるだけでは得点にならない**。「〜ということ。」「〜という気持ち。」「〜もの。」など、**設問の指定する結び方**に合わせて、たとえを**自分の言葉に置きかえて**書くこと。